

平成26年度第1回奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会議事概要

開催日時 平成26年7月31日(木) 13:30～15:30

開催場所 奈良県立医科大学 厳櫃会館 3階会議室

出席者

(委員) 安田委員長、今中委員、堀委員、矢島委員

(法人) 細井理事長、林副理事長、山下理事、車谷理事、古家理事、

その他関係課職員

(事務局) 中川県知事公室審議官、河合課長、木嶋課長補佐、

その他病院マネジメント課職員

議 題

- (1) 平成25年度に係る業務実績に関する評価の検討について
- (2) 平成25年度財務諸表について
- (3) 役員報酬等の支給基準の変更について

公開・非公開の別

公開(傍聴者 0人、報道関係者 0人)

議事内容

- (1) 平成25年度に係る業務実績に関する評価の検討について
 - ・法人より「資料1」の説明
 - ・事務局より「参考資料1」、「参考資料3」及び「参考資料4」の説明

[堀委員]

平成25年度中にセンターが立ち上げられたのか。「立ち上げを決定した」「設置した」の定義は何なのか。

[法人]

「設置」は、人員配置を含めた体制が平成25年度中に、役員会の承認を経て動ける体制になったことを意味する。よって実際に動き出すのは平成26年度からである。

[矢島委員]

年度計画には、「研究推進戦略本部を設置し、研究活動に係る基本方針を策定する」と書いてあるが、実施状況には基本方針を策定した、といった文言が見当たらない。どのように判断すればよいのか。

[安田委員長]

矢島委員と同じく、年度計画と実施状況とが違う場合が散見される。事前に質問させていただいても策定された中身が分からない。

[法人]

研究推進戦略本部は設置した。「基本方針」を文章化して定めてはいない。

[堀委員]

各論での確認をしたい項目がたくさんある。文言が不明確である。微妙な表現の差で評価に影響する。

[安田委員長]

これからは、年度計画にそって具体的に書いてほしい。

[法人]

次年度以降は、年度計画にそって書いていくようにする。

[堀委員]

年度連番 39 を S 評価としているが、医大内部の合意形成は図れたと判断してよいのか。

[法人]

アンケート調査を行ったうえで、移転等に反対の方に対しては直接インタビューを行うといった形でコミュニケーションを図った。そうした中、移転への理解が及んでおらず、情報が正しく伝わっていないということが背景にあることがわかった。今では、かなりのレベルで合意形成が図られていると考えている。

[矢島委員]

ワークライフバランスの見直しについて、年度計画では就業規則の見直しがあるが、就業規則の見直しまで至ったのかどうか。また、育休取得の中に「保育園の充実」が入っているが関係があるのか。

[法人]

就業規則見直しまで至っていない。平成 26 年 6 月を目途に短時間勤務制度を導入しようとしている。「保育園の充実」は育休取得には関係ない。

[今中委員]

自己評価 S の中で、大和漢方医学薬学センターの設置が、実施状況において、教員を採用しキックオフセミナーを開催することとなっているが、このことは、設置するうえで当たり前だと思うが、ここに書いていない S になる要因があるのか。

[法人]

教員も 1 名でよいところを 2 名採用し、キックオフセミナーを開催したことは年度

計画より進んでいるとご理解いただきたい。文言の問題で、少し計画より進んでいるものである。

[今中委員]

年度連番 33 で、昨年度も学生アンケートのことが書いてあり、本年度も書いてあるが今年度でプラス α のことがあったから自己評価 S なのか。

[法人]

3年おきに実施しているアンケートである。学生への回収率が高くなるような調査の仕方をしたことや、今回の調査では大学の取組への評価をきちんともらっているといった点から S 評価にした。

[安田委員長]

年度連番 1 の医師派遣について、南和地域公立病院等の実態やニーズの把握をしたのかどうか。

[堀委員]

具体的なニーズの把握はどうか。微妙で難しい点であると思うが。

[法人]

南和地域の病院等の分布から判断しようとしている。しかし、完璧なニーズの把握はできていない。把握しながら進んでいるというのが実態。現在ある病院の外来・入院者数、収益から統合した時にどのような支援が必要になるのか考えている。

[今中委員]

まちづくりという項目があるのは素晴らしいし、またキャンパス移転についても分かりやすいが、どのようなまちづくりを目指しているのか。

[事務局]

医大の将来像の策定会議の中で検討している最中である。その中で、教育・研究部門の移転にともない、現敷地を病院エリアと駐車場エリア、医大に関連したまちづくりとして、高齢者の福祉施設などの建設を予定している。また、新キャンパスの中で、体育施設や地域の方が利用できる施設、先生方が会議を行えるような施設等を整備する予定である。

(2) 平成25年度財務諸表について

- ・法人より「参考資料12」に基づいて財務諸表について説明

[堀委員]

臨時損失における診療報酬の件に関して、具体的にどのような点を指摘されたのか、また退職給付の引当金についてなぜこのタイミングでの指摘があったのか。

[法人]

臨時損失の診療報酬については、特定薬剤の検査結果をカルテに未記載のものについて等で厚生労働省から指摘があった。また、退職給付の引当金については、対象職員が300人未満であれば簡便法とあって、年度末に今いる職員が退職した場合にどの程度の退職金が必要になるのかを計算し積み立てする方式であったのだが、平成25年度にプロパー職員が300人を超えたことから、会計ルールに従って、原則法とあって、将来の退職金必要額を見込んで引当をする方式に変更したことから、このタイミングでの指摘となった。

(3) 役員報酬等の支給基準の変更について

- ・医科大学より、「資料3」の説明

→質問事項はなし。役員報酬等の支給基準の変更については、評価委員会として「特段意見はない」との結論に至った。

(4) 全体を通して

[堀委員]

病院の経営等、本当によくやっけていただいている。在院日数も非常に良いし、稼働率も大学病院では難しいものではあるが、85%を超えるところを目指している。単価もまずまずである。一方で、逆紹介率が大学病院としては悪い。これは今後、地域連携といった観点からも改善する必要がある。また、県の役割が中期計画に書いてあることは非常に良いことで画期的であると思う。県の取組に関しても非常に踏み込んだ記載があり、評価したいと思う。しかし、県がサポートしてくれないから、医大の中で取り組めない項目が今後出てくる可能性もある。医大の取組が十分に行われなかった場合に、県のサポートが不十分であったためである、といったことが出てくるかもしれない。評価委員会では医大の取組は評価するが、県の取組については評価しないので、評価委員会の役割や立場を明確にしておいてほしい。

[事務局]

評価委員会での評定に基づいて、次年度以降の補助率を決めようと考えている。知事は、教育・研究部門の移転に関して県が責任をもって支援する、病院部門に関して今まで以上に下支えすると明言されている。県と医大が一緒になって良い方向に向

かっていけばよいと思っている。

[今中委員]

大学病院の運営は非常に難しいが、奈良医大のようにまとまりよく進められている例はあまりない。全体として素晴らしいパフォーマンスだと考えている。しかし、逆紹介率が低く、外来収益が伸びているというのは、現在の医療政策の流れに逆行しているので、再度ご検討いただきたい。

[矢島委員]

ワークライフバランスの観点で短時間正規労働制度の導入が遅れているようであるが、2009年の育児・介護休業法の改正で義務付けられた措置であって、就業規則に書いて無くても、実質的に使えていたら問題ないが、使えてないようならばコンプライアンス上問題となることなので、早急にご検討いただきたい。ワークライフバランスのアンケート調査票はついているが、結果も資料としていただければ今後の検討課題が見えてくると思う。

また、最近企業では「がんの治療と働き方」が大きなテーマになってきている。その中で、仕事を優先するあまり、治療が計画通りに行われなかったといった問題がある。がんは治る病気であるが、比較的若い患者は仕事を優先するあまり治療の計画が滞るといったことが問題となっている。治療の中にそのような視点も入れていただいて、企業との連携等をご検討いただければと思う。

